

友愛の丘が目指すもの

友愛の丘は

古くから、京都から五里、奈良から五里のちょうど中間にあることから「五里五里の里」として栄えた城陽市に友愛の丘はあります。

自然豊かなアウトドアフィールドでありながら、車はもちろん、JR長池駅から徒歩でもアクセス可能という、恵まれた立地条件であることが特色です。

昭和46年（1971年）に当時の野外教育指導者や学生たちが団結し、野外活動を通じた青少年の健全な育成を目指し、ここ友愛の丘にキャンプ場を開いたことが始まりです。そこから四十年余りが過ぎ、時代が変わった今でも、その理想と情熱は引き継がれています。



自然体験・野外活動が持つ力



お友だちと協力しテントを張る。夜になり、星を見上げ、そのテントで寝る。食事をつくるために焚き木を集める。マッチを擦る。薪を組み、火をつける。生き物を見つけ追いかける。服や体が汚れることを気にせず、水や泥に飛び込み、走り回る。自然体験・野外活動の中には、こういった体験があふれています。

昔から「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、体験したことは理解する。」と言われるように、自ら体験することによって、体で覚え、より深い学びと気づきを得ることができます。テレビゲームは刺激的でおも

しろいですし、テレビや本で得た知識も大切ですが、やはり本物の体験に勝るものはないのではないのでしょうか。

自然の中に飛び込むと、子どもたちはいろいろなものを発見し、目を輝かせて教えてくれます。「すごいね!」「おもしろいね!」といつしよに喜ぶ人がいることで、子どもたちはさらに目を輝かせ、もっとおもしろいものを見つけたいくなります。認められ、見守られ、安心を感じると、子どもたちは落ち着き、「自分はこれでいいんだ。」と自己肯定感を得ることができます。このことは**豊かな心を育む**ためにとっても大切なことです。自然体験・野外活動の中には、子どもたちと共に喜ぶチャンスがあふれています。



環境・フィールド

豊かな体験から学ぶために

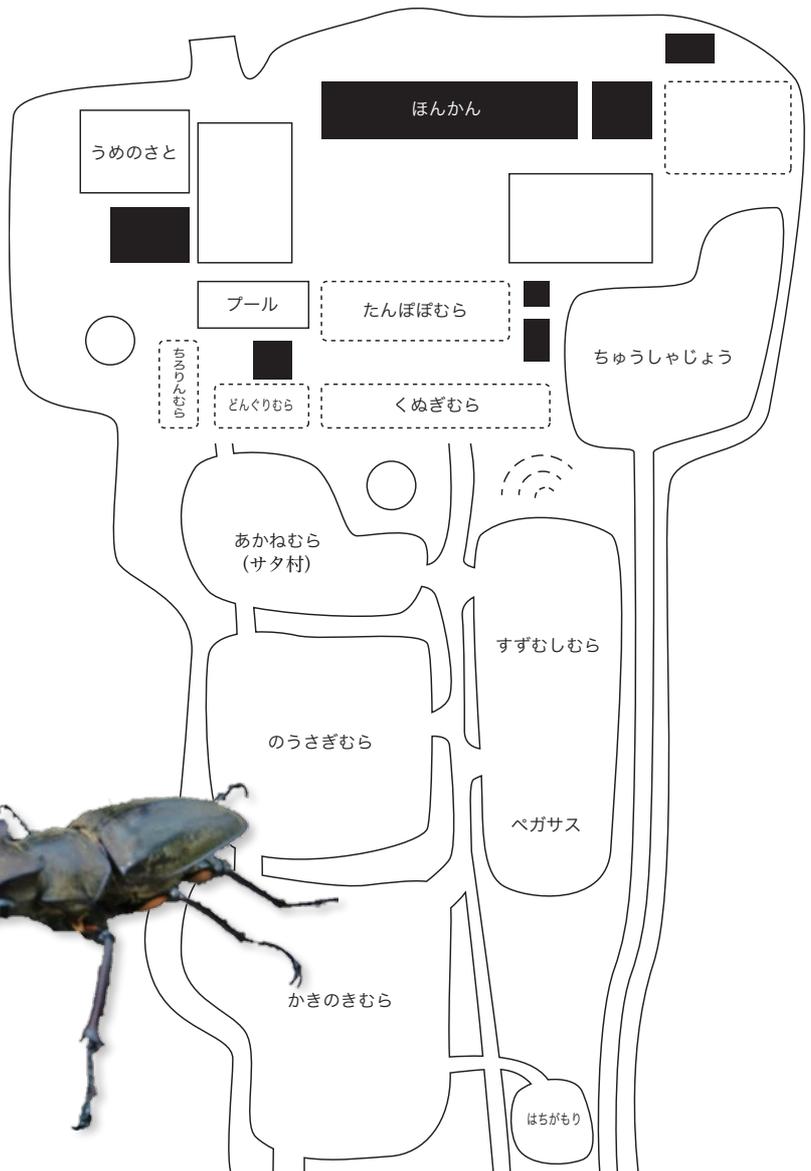
人口約8万人の中型都市にありながら、取り残されたように豊かな森が広がる友愛の丘。自然の本来の姿を生かしながら、安全に整備されたフィールドは、子どもたちの自然体験・野外活動には最適です。



友愛の丘は**自然の恵みの宝庫**です。春は地面からよきよき顔を出したたけのこや、甘酸っぱいグミの実やビワの実。野原にはタンポポやカタバミ、スイバ、カラスノエンドウなどの野草が広がります。よく気がつく子はおいしい野いちごを見つけたりもします。秋には柿や栗の実がいっぱい。ここでは**「汚いから食べちゃいけません！」とは決して言われません**。渋柿を食べたときの、口の中の水分が全部なくなるような、強烈な渋さ！「うえー！」と言ってペッペッと吐き出して、みんなで笑う。これが最高に楽しいのです。

森はたくさんの命を育てています。この森の生態系ピラミッドの頂点に君臨するのはフクロウ。イタチやタヌキ、ウサギ、モグラ、ネズミなどの哺乳類や、メジロ、ヤマバト、キジなどの鳥類、シマヘビ、ニホントカゲ、カナヘビなどの爬虫類、カブトムシやクワガタ、美しいタマムシなど、虫も数え切れないほど豊富にいます。そのひとつひとつの命が子どもたちに多くのことを教えてくれるのです。

木登りで多少枝が折れても構いません。虫を捕まえてもOK。地面に穴を掘ってもいいし、竹を切ってもいい。子どもたちの**「やりたい！」**を叶えられる大らかなフィールドだからこそ、豊かな体験をすることができるのです。



安全について

自分のからだを自分で守れる「力」



何事においても、安全であることは常に第一に優先されます。私たちが行う自然体験・野外活動においてもそれは変わりません。

森の中を探検したり、木登りをしたり、川に飛び込んだり、野山を走り回ったり。自然のなかにはトゲのある植物もありますし、様々な虫も爬虫類も棲んでいます。走れば転ぶこともあるでしょう。豊かな体験には必ず何かしらのリスクが潜んでいます。ですが、リスクを完全に除こうと思えば、子どもたちの体験のチャンスを大きく制限することになり、「安全」と引き換えに**体験の価値**は大きく下がって

しまいます。それでは、せっかくの機会もつまらないものになってしまうでしょう。

安全+価値のある体験を送るためには、リスクを完全に排除するのではなく、リスクを把握し、コントロールすることが大切であると考えます。例えばナイフはアウトドアに欠かせない便利な道具ですが、扱い方を知らなかったり、使い方を誤れば、たちまち凶器に変わります。自分のからだも、人のからだも安全にするにはどうしたらいいか。自然体験・野外活動では、リスクがそこにあることにより、普遍的な知恵と「力」を身につけることができます。

裏付けのある万全のケアシステム

友愛の丘の職員は、子どもキャンプ専門職員はもちろん、事務職員に至るまで、**全員がMEDIC First Aid チャイルドケアプラス™コースを修了**しています。

MEDIC First Aidチャイルドケアプラス™は世界最新の医療ガイドラインに基づいたAED（心室除細動器）の取り扱いやCPR（心肺蘇生法）、乳児から成人までのファーストエイドをカバーするコースです。

学生スタッフであるキャンプカウンセラーに対しても定期的にファーストエイドや危険予知のトレーニングを行い、**適切なケアが行える体制**を整えています。

（MEDIC First Aidについてはこちらのホームページをご覧ください。<http://www.mfa-japan.com>）

また、友愛の丘は日本最大の野外教育ネットワークであるJON（日本アウトドアネットワーク）に加盟し、安全に関する最新の情報を常に取り入れ、事業に反映させています。なお、ご参加の方全員、万が一の場合に備え、適切な傷害保険に加入しています。



最寄りの救急病院

京都きづ川病院

京都府城陽市平川西六反26-1

0774-54-1111

内科・外科 他

スタッフ



専門職員

各部門のCD:キャンプディレクターです。



左から

酒井 俊彦 (すいんぐ) PAC・サタデー
 林 愛美 (マイティ) りとる・コキッズ
 柿本 浩孝 (ダース) じゅにあ
 小谷 尚江 (こたやん) コキッズ

キャンプカウンセラー

友愛の丘が指導育成する約50名の**大学生ボランティアスタッフ**「キャンプカウンセラー」(上の写真参照)が子どもたちの体験をサポートします。通年事業でのキャンプカウンセラーの組織は、**コアチーム**と**スペシャルチーム**に分かれています。コアチームは**少人数の専門チーム**です。CD:キャンプディレクターと共に各部門の企画・運営をし、当日は主にPm:プログラムマスターなど、上位の役割を担当します。スペシャルチームはコアチームに所属せず、その都度、どの部門にも参加するチームです。当日はグループカウンセラーやマネジメントスタッフを担当します。

